

令和4年度 府立園部高等学校附属中学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)実施段階

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
教育方針(中高共通)：【健全・明朗・誠実】 健全： 真理を求め正義を愛する心身の健全な人となること 明朗： 進取敢為の性と明朗闊達な風とをもつ人となること 誠実： 敬愛と誠実の心をもって社会に生きる人となること 教育目標： 生徒の個性・学力・人間性を育み、志高く創造性に富んだ未来社会の形成者を育成する。 基本コンセプト：【大志・知・創造】 大志： 大きく高い志をもって自己実現を目指す人を育てる。 知： 知の世紀をリードする高い知性を備えた人を育てる。 創造： 21世紀社会を力強く生きる創造性に富んだ人を育てる。		成果 ・コロナ禍において、教育活動が制限される中、オンラインを活用するなど工夫しながら学校行事や実践発表会を実施することができた。 ・電子黒板型プロジェクターやタブレット端末の活用により学校全体で取り組むことができた。 ・学年道徳など授業形態についての工夫を行い、学校全体で道徳教育に取り組めた。 ・スクールカウンセラーの活用により、相談する場の提供が継続できている。 課題 ・ICTをより効果的に活用した教育活動の研究を推進する必要がある。 ・個々の生徒の課題をより細かく把握し、課題に応じた指導を更に充実させる必要がある。 ・中高6年間を見通したプログラムを更に効果的に機能させるための検討が必要である。 ・様々な成果を、保護者や地域に発信していくしくみについて検討する必要がある。	1 中高一貫教育の充実 2 特色ある学校づくりの推進 ・総合的な学習の時間や体験的な学習の充実 ・ICTを積極的に活用した教育活動の推進 3 学力の充実と進路希望の実現 ・魅力ある授業の提供に向けた授業改善の推進 ・学習指導及び相談活動等の生徒へのサポート体制の充実 4 生徒指導の徹底 5 人権教育及び道徳教育の推進 6 国際理解教育の推進 7 教育相談及び特別支援教育の推進 ・教育相談、特別支援教育の連携強化	
評価領域	重点目標	具体的方策		評価
組織・運営	学校組織体制の見直し	学年会議、中学会議を充実させ、組織を活性化させる。また、必要に応じて変更を行う。		B
	魅力ある学校づくりの推進	全ての生徒にとって魅力的な学校づくりに向けて、ICTを積極的に活用した授業の改善、生徒へのサポートの充実、いじめの防止をはじめとした生徒指導の充実等を図る。		A
学習指導	生徒自らが将来を展望し、意欲的に学習に取り組める学習活動の充実	自分自身や社会全体の将来を展望し、今の自分にとって必要な生きる力を育てる「学びと未来」、「クリエーション」等の学習活動の充実を図る。		B
		システム手帳を活用し、自ら計画を立てて進んで学習に取り組める習慣を身につけさせる活動を行う。また、意欲的に学習に取り組む学習形態や活動の研究、実践する。		C
	学習に不安を抱く生徒へのサポート体制の充実を図る。	学習に不安を抱く生徒へのサポート体制の充実を図る。		B
	基礎基本はもちろん、発展的な学習とそれに対応できる能力の育成を図る学習活動の実施 授業改善と教師の指導力向上	アクティブラーニング、グループワークなどによる言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力の育成を通して、自ら課題を解決できる能力の向上を図る。 校内授業研究を実施し、教師が互いの授業実践を振り返り、授業改善に生かす機会とする。 高等学校との連携を行い、6年間を見据えた指導法を共通確認する。		B
生徒指導	いじめの未然防止の徹底	学校の教育活動全体を通じた生徒への指導を行い、いじめをしない・許さない姿勢を育成する。 教職員の資質能力向上に向けた研修等の取組を実施する。いじめが疑われる事象については、迅速に組織的な対応を行う。		B
		生徒の細かな変化を捉えるため業間指導など、生徒に寄り添った姿勢で、自己の可能性の開発を援助する指導を行う。		B
	生徒の状況を把握した上での自己指導能力の育成	スクールカウンセラーの効果的な活用を工夫する。また、教育相談などを全員で共有する。		B
				B
進路指導	進路希望の実現を目指す学力の充実と向上	基本的な生活習慣を確立させるとともに、生徒一人ひとりの目標にとって必要かつ確かな学習指導を行う。		B
	主体的な進路選択能力の育成	生徒が自らの生き方を考え、主体的に進路が選択できるよう計画的・組織的な指導の充実を図る。		B
特別活動	望ましい集団活動を通して、互いに支え合える人間関係づくりの育成	積極的に集団活動を取り入れ、集団の一員として自己の役割を果たしたり、お互いが協力できる関係を育てる。		B
	生徒の自主的な活動の充実と実践的な態度の育成	学級活動、生徒会活動及び学校行事で、リーダーを中心に自ら考えて計画的に取り組ませる。また、その振り返りを重視してよりよい学校作りに繋げる。		B
道徳教育	道徳の授業の充実	自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める授業を実践する。		B
	評価等の研究の推進	評価の在り方や授業づくりの工夫など、道徳推進教員を中心に研修などを行い、職員全体の指導力向上を図るとともに道徳教育の充実を目指す。		C
人権教育		年間指導計画に基づき、人権尊重を踏まえた教育実践に努め、普遍的な視点・個別的な視点からのアプローチを通じた人権教育の充実を図る。		B
	人権尊重の精神と人権感覚の育成	充実した人権学習の中で、様々な人権問題の正しい理解と認識を深め、仲間とともに支え合い学び合う生徒を育成する。		B
		教職員自らが鋭い人権感覚と実践的態度を身につける。		B
健康安全教育	生涯を通じて心身ともに健康で安全に過ごすことができる、たくましい実践力を身に付けた生徒の育成	薬物乱用防止教室や普通教員講習会等を活用しながら、感染症や生活習慣病の予防など心身の健康上の課題に対応できる能力と態度の育成を図る。 スクールカウンセラーと連携し、教育相談を充実させる。また、1年生・3年生の全員面談を継続して実施し、学校全体でメンタルヘルスに課題のある生徒への支援体制をつくる。		B
		定期健康診断を計画的に実施し、結果の通知や治療の勧告を通して、病気の予防や健康増進への意識を高める。		B
	健康診断の結果を踏まえ、自己の健康の保持・増進する態度の育成	「保健だより」の発行や健康相談の充実により、健康に対する理解を深める。		B
				B
情報教育	情報モラルにかかわる教育の充実	情報モラルにかかわる教育を計画的に実施する。		B
	情報及び情報手段を主体的に選択し、活用する能力と態度の育成	各教科、領域等における情報及び情報手段を学習目標にそって効果的に活用する手法を研究する。		B
国際理解教育	広い視野を持って異文化を理解し、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていくための資質や能力の育成	様々な国の人との交流する活動や国際理解に関する授業を実施する。		B
	自国を知り、それを踏まえた国際的視野を広げるための体験的活動の充実	自国の文化に触れる機会の充実を図る。		B
特別支援教育	生徒の実態把握を踏まえた特別支援教育の推進	中高合同の教育相談会議に参加し、教員間で生徒の実態把握を進め、共通理解を深める。 保護者との連携を密にし、担任だけでなく、コーディネーター、学年、学校全体で生徒を見ていく。		B
				C
生徒募集	学校説明会の内容の改善と充実	感染症対策を念頭に置きながら、3回の学校説明会の内容を吟味する。		B
	広報活動の工夫	本校の特色を明確にし、伝える手段を工夫する。		C
学校評価委員会による評価	コロナ禍において、教育活動や広報活動に制限があったが、この間にできなかったことを検証し、次年度は従来以上の取組ができるよう検討して欲しい。高等学校とも連携して魅力ある中高一貫教育を確立し、探究的な学習の成果などを地域や保護者に対してもっと積極的に情報発信してはどうか。様々な取組に対して経年比較し、中・長期的な改善策を練る必要がある。			
次年度に向けた改善の方向性	評価がCの項目については、年度当初に具体的な改善策を検討する。評価がBの項目については、どうすればAとなるのかを分析し、更なる工夫を考える。園部高等学校附属中学校の特色ある教育活動を、児童や保護者に直接見ていただくなどの機会を設け、学校の魅力を高める活動に積極的に取り組む。			

評価数値の見方(後期)	
A	目標が十分達成され、効果を上げている。
B	目標が計画通り実施され、一定の効果が上がっている。
C	計画通り実施できているとは言えず、あまり効果が上がっていない。
D	実施がかなり不十分である。